

経済学部経済学科通信教育課程

I 2018年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2018年度大学評価結果総評】(参考)

経済学部経済学科通信教育課程は、通信教育課程という特殊な環境において自身が抱える現状の課題を認識した上で、現実的な対応策を模索していることがうかがえる。特にカリキュラムの順次化・体系化や学習効果の測定方法については、メディアスクーリングの拡充をはじめとするこれまでのカリキュラム改革に加えて、通学課程と同様に、2017年度にはすべての科目についてディプロマポリシーとの紐づけを行った上、カリキュラムツリーとカリキュラムマップを作成しており、組織的な改善策として評価できる。学生への指導については、履修指導および学習指導の双方において、通信学習ゆえに学生が陥りやすい問題や不安に対して、きめの細かい優れた取り組みがなされているが、一方で、学生支援についてはスクーリング時の対応を中心に、より充実した取り組みが望まれる。また、データを組織的に活用してカリキュラムの検証を行うことは、今後の課題である。

定員未充足の問題、通信教育課程専属の専任教員不在の問題、学内外の組織との連携の問題等は、通信教育課程全体ないしは教授会および学務部教学企画課をはじめとする学内の諸部門との連携・協力の下、改善策を検討することが望まれる。

【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

通信教育課程において身体障がい者、精神障がい者、精神疾患が重い学生等も多く在籍している。こういった学生への学生支援について、学生相談・支援室等の学内各所との連携をはかり、通信教育部として対応している。上記のような学生が増加傾向にあるため、問題発生時の対応フローを学務委員会で策定した。また学生支援の一つであるガイダンス系のコンテンツや学習の仕組みについての「学習スタートアップガイド」をHP上に掲載し、学生支援の一助にしている(<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/guidance/>)。

カリキュラムの検証については今後の課題であるが、学生アンケート等からメディアスクーリング科目の充実が好評であり、引き続き充実を目指すとともに、コンテンツのリニューアルも進めていきたい。

定員未充足問題については、通信制大学のほとんどが未充足となっている。5大学の様子をみながら対応するとともに、2019年度入学者数は若干増加が期待できそうであるため、引き続き事務局とともに広報活動を行っていきたい。

専任教員不在問題は、大学通信教育設置基準の附則にあるとおり、「この省令施行の際、現に通信教育を開設している大学の組織、編制、施設及び設備で、この省令の施行の日前に係るものについては、当分の間、なお従前の例によることができる。」に従い、他大学と歩調を合わせながら対応していきたい。

なお、これらの課題については通信教育部全体として、本学学務課、5大学、通信教育協会と連携をはかり、歩調を合わせる事が最も適切な対応であるため、密に連絡を取り続けていく。

【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

経済学部経済学科通信教育課程に対して、2018年度大学評価委員会からは、主に①学生支援の充実化、②データの組織的活用によるカリキュラムの検証、③定員未充足、通信教育課程専属の専任教員の不在、学内外の組織との連携の各問題について、学内の諸部門との連携・協力の下での改善策の検討、について提言が出された。①への対応について、同課程は、学生相談・支援室等の学内各所との連携をはかるとともに「学習スタートアップガイド」をHPに掲載するなど通信教育部として対応している。②への対応については、学生アンケートの結果に基づいて、メディアスクーリングの開講科目を増やすなど、カリキュラムの検証に取り組んでいることから評価できる。③への対応については、特に定員の未充足問題について今後も引き続き具体的な改善策の検討が求められる。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2019年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S A B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

通信教育課程は、通信学習、スクーリング、メディアスクーリングといった様々な形態で教育を提供している。学生は自分に適した学習形態を選択できることが通信教育課程の特徴の一つである。特にスクーリングにおいては、昼間 6 日間の夏・冬期スクーリング、夜間 14 週の春期・秋期スクーリング、3 日間の集中授業である週末スクーリング、地方スクーリング、GW スクーリング、更にインターネットを利用したメディアスクーリングを開講しており、その形態は多様である。そして、前年度に引き継ぎ、メディアスクーリングの開講科目を増やす努力をしており、通信教育課程全体（他学科公開科目を含む）として 80 科目（2019 年度）を設置（予定）している。これらのメディアスクーリングにおいては、リニューアル（撮り直し）も一部で実施され、学生のニーズに対応している。これら多様な開講形態、多様なスクーリングは、社会人、障がい者等を含む様々な背景を持つ多くの学生にとって、選択肢の幅を広げるのみならず、能力育成の観点からも大きなメリットとなっている。

【根拠資料】※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等

- ・教育課程表 <https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/economics/subject/cultural.html>
- ・マップ <https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/economics/subject/curriculum-map.pdf>
- ・ツリー <https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/economics/subject/curriculum-tree.pdf>
- ・スクーリング開講科目一覧 https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2019/03/20190208_05ec.pdf

②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系的性を確保していますか。

S A B

※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。

2013 年度から大幅なカリキュラム改革を実施し、できる限り通学課程のカリキュラムと同等の内容とすると同時に、経済学部経済学科として修得が求められる基本科目を厳選したカリキュラムとした。また、真に学ぶ意欲と適性のある学生に対し、広範な知的素養と思考力を身につけた社会に貢献しうる人材を育成するための授業科目を体系的に配置した。これにより、日本の通信教育課程において、もっとも幅広い経済学の知識の習得、教育を実現した学科の 1 つとなっている。

2017 年度には、すべての科目について、どのディプロマ・ポリシーに該当するのかを明確にした。それをもとに学科のカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップを体系的に作成し、HP 上に公開することで学生の履修の一助としている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・教育課程表 <https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/economics/subject/cultural.html>
- ・マップ <https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/economics/subject/curriculum-map.pdf>
- ・ツリー <https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/economics/subject/curriculum-tree.pdf>

1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

S A B

【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・Web 学習相談制度
- ・ステップ型の学習ガイダンス（1 ステップ：職員による制度説明・2 ステップ：卒業生による経験談他・3 ステップ：教員による学習指導他）

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/learn-support/guidance/>

②学生の学習指導を適切に行っていますか。

S A B

※取り組み概要を記入。

通信学習において、市販本を教科書として利用している科目のうち、一部の科目においてスタディガイド（学習指導書）を作成・配布し、学習の手助けとしている。また、通信学習を進めるにあたり、生じた疑問点に質問することが可能な「学習質疑」制度があり、直接担当教員の指導を受けることが可能となっている。

スクーリング時においては、オフィスアワーを設置している。夏期・冬期スクーリングにおいて「通教生のつどい」を実施し、学生間のみならずこれに参加する教員・学生間での情報交換も可能となる場の提供も行っている。

この他、前述の Web 学習相談制度は通信教育部卒業生を担当者とし、履修のみならず、学習相談等にも対応している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・スタディガイドサンプル
- ・学習のしおり抜粋

1.3 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S A B
<p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価方法と単位認定の内容の明記および遂行 ・通信学習シラバス・設題総覧「設題解答にあたっての解説・注意等」 ・シラバス「成績評価基準」 ・各期間と各都市のスクーリング シラバス「成績評価基準」、「講義内容」「予習範囲」等単位認定への道筋を記載 <p>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>2019年度から通学課程で実施される成績評価基準を通信教育課程でも取り入れ、学生への周知を行った。またGPA制度については履修方法が異なるため、通信教育課程独自のものを2019年度から導入することも学生へ周知した。今後、公平で、信頼性の高い成績評価が行われる準備ができた。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Webシラバス記載のシラバス ・法政通信3月号抜粋 	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進級判定は卒業判定と併せて教授会審議事項 ・成績分布/レポート数/単位修得試験者数/スクーリング受講者数等は学務委員会を通じて教授会に報告 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>すべての科目について、どのディプロマ・ポリシーに該当するのかを網羅した。それをもとに、各学科のカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップを作成した。これにより学習成果を測定するための基礎資料が完成した。またカリキュラムツリー・カリキュラムマップをHPに公開している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マップ https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/economics/subject/curriculum-map.pdf ・ツリー https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/economics/subject/curriculum-tree.pdf 	
③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S A B
<p>※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等）。</p> <p>通信科目はレポート添削に加え、単位修得試験（筆記試験）によって一連の学習の最終的な到達点を測定している。スクーリングでは授業の最終日に実施する最終試験（筆記試験）でその成果を測っている。また、メディアスクーリングでは中間レポートを課している科目も多くあり、学習効果の向上を心掛けている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・多様な背景を持った在学生在が多いのが通信教育課程の特徴であるが、在学生のニーズを正確に把握するために学生アンケートの集計結果を活用している。これは受講形式としてメディアスクーリングの拡充を目指すことなどの方針決定に寄与しており、教育効果を高めるための工夫かつ長所である。 ・成績評価基準の変更とGPA制度の導入により、公平で信頼性のある評価を実施する準備が整った。 	1.1①、1.3①

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・GPA 制度がうまく機能しているかどうかについては、通信教育課程では在学生の多くが長期スペンで単位修得・卒業を目指しており、また在籍年限も 12 年+12 年=24 年と長いことから、評価に長い年月を必要とすると考えられる。 ・現状では学位授与方針に示されたディプロマ・ポリシーのそれぞれを在学生在がどの程度達成できているのか把握できるような仕組みがない。この点については、今後のアセスメントポリシーを整備する上での課題と考えられる。例えば、GPA 制度を活用した新たなディプロマ・ポリシーの評価方法を導入するなど可視化すべきである。 	1.1②、1.3①

【この基準の大学評価】

①教育課程・教育内容に関すること (1.1)

経済学部経済学科通信教育課程は、ディプロマ・ポリシーに基づいて、バランスの取れた科目区分、学力三要素の均斉成長、スクーリング、ブリッジング、積み上げ式、体系的、分野、研究テーマ思考方という細かい原則に基づいて教育課程と教育内容を設定しており、高く評価できる。特に、スクーリングの形態は各期スクーリング、地方スクーリング、メディアスクーリングなど多様であり、学生の選択肢を広げるなど、学生の能力や意欲を高めるという点で評価できる。

カリキュラムの順次性・体系的の確保については、すべての科目とディプロマ・ポリシーの関連性を明確化し、それを基に各学科のカリキュラムツリーとカリキュラムマップを体系的に作成するといった取り組みを行っており、評価できる。

②教育方法に関すること (1.2)

学生の履修指導に関して、経済学部経済学科通信教育課程では、Web 学習相談制度や職員による制度説明、卒業生による経験談、教員による学習指導から成るステップ型学習ガイダンスの実施などきめ細かい取り組みを実施しており、評価できる。また学習指導についても、学習支援のため一部科目において学習指導書を作成・配布するだけでなく、書面で郵送し担当教員への質問ができる「学習質疑制度」やスクーリング時におけるオフィスアワーを通して、教員が学生に直接指導する機会を設けるなど、効果的な取り組みが行われており評価できる。

③学習成果・教育改善に関すること (1.3~1.4)

経済学部経済学科通信教育課程は、成績評価と単位認定の適切性の確認について、それらの情報をシラバスに記載することとそれを遂行することを義務付け、学務委員が確認作業を行うとされているものの、これが適切性の確認としてふさわしい方策であるのか再検討が必要と思われる。確認のためのより具体的な方策がとられることが望ましい。成績分布と進級などの状況把握については、学務委員会を通じて教授会に報告されており、妥当であると判断できる。分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の設定については、カリキュラムツリーとカリキュラムマップを作成するなど取り組みを行っている。また具体的な学習成果の把握と評価については、レポート試験や単位修得試験によって実施されており、十分な取り組みであると評価できる。

III 2018 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】							
1	中期目標	生涯学習に対応した更なるカリキュラムの充実。							
	年度目標	成績分布や学生アンケート等のデータを活用し、カリキュラム科目のより一層の充実を目指す。							
	達成指標	通教学務委員会の開催記録と教授会等へのフィードバック（通教主任による報告と教授会の承認）。							
	年度末報告	<table border="1"> <tr> <td>教授会執行部による点検・評価</td> <td></td> </tr> <tr> <td>自己評価</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>前年度の成績分布については年度初の、また在学生アンケートについては秋学科に開催される通教学務委員会を通じて、教授会にデータがそれぞれフィードバックされた。</td> </tr> <tr> <td>改善策</td> <td>学生アンケートで要望の多いメディアスクーリングの充実と開講科目の多様性を確保するために新規開講科目のさらなる増加を目指す。</td> </tr> </table>	教授会執行部による点検・評価		自己評価	A	理由	前年度の成績分布については年度初の、また在学生アンケートについては秋学科に開催される通教学務委員会を通じて、教授会にデータがそれぞれフィードバックされた。	改善策
教授会執行部による点検・評価									
自己評価	A								
理由	前年度の成績分布については年度初の、また在学生アンケートについては秋学科に開催される通教学務委員会を通じて、教授会にデータがそれぞれフィードバックされた。								
改善策	学生アンケートで要望の多いメディアスクーリングの充実と開講科目の多様性を確保するために新規開講科目のさらなる増加を目指す。								

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】							
2	中期目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップの活用を通じたカリキュラムの点検と改善。							
	年度目標	昨年度作成したカリキュラムツリー・カリキュラムマップを使って、カリキュラムの整合性や順次性を、専任教員がチェックし、改善を行う（PDCA）。							
	達成指標	学部専任教員（特に通教担当教員）への説明とフィードバックの反映。PDCA サイクルを回す。							
	年度末報告	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">教授会執行部による点検・評価</td> </tr> <tr> <td>自己評価</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>カリキュラムツリー・カリキュラムマップを通教学務委員と教授会執行部が中心となり、作成・点検した。また、点検後に修正を行い、それを HP に公表している。</td> </tr> <tr> <td>改善策</td> <td>作成したカリキュラムマップ、ツリーと実際の講義科目の内容や接続性が整合しているかについてモニタリングを継続する。</td> </tr> </table>	教授会執行部による点検・評価		自己評価	A	理由	カリキュラムツリー・カリキュラムマップを通教学務委員と教授会執行部が中心となり、作成・点検した。また、点検後に修正を行い、それを HP に公表している。	改善策
教授会執行部による点検・評価									
自己評価	A								
理由	カリキュラムツリー・カリキュラムマップを通教学務委員と教授会執行部が中心となり、作成・点検した。また、点検後に修正を行い、それを HP に公表している。								
改善策	作成したカリキュラムマップ、ツリーと実際の講義科目の内容や接続性が整合しているかについてモニタリングを継続する。								
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】							
3	中期目標	検証に基づく更なるスクーリングの充実。							
	年度目標	学生アンケート結果に明確に出ているメディア授業のニーズに応えるべく、メディア授業の充実を目指す。メディア授業とスクーリングの開講科目のバランスも検証する。							
	達成指標	メディア授業の科目数を増やす。（検討結果。） メディア授業とスクーリングの開講科目のバランスを検証し、必要に応じて再配置を行う。							
	年度末報告	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">教授会執行部による点検・評価</td> </tr> <tr> <td>自己評価</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>労働経済論 A・B、経済地理（Ⅰ・Ⅱ）をメディアスクーリングで新規に開講した。労働経済論はメディアスクーリングでのみの開講とし、経済地理はメディアと通信学習の 2 つで開講するなど、バランスを考慮した。</td> </tr> <tr> <td>改善策</td> <td>今後は日本経済論、産業組織論、開発経済論、金融論等の各種専門科目についてもメディアスクーリングの開講を目指す。</td> </tr> </table>	教授会執行部による点検・評価		自己評価	S	理由	労働経済論 A・B、経済地理（Ⅰ・Ⅱ）をメディアスクーリングで新規に開講した。労働経済論はメディアスクーリングでのみの開講とし、経済地理はメディアと通信学習の 2 つで開講するなど、バランスを考慮した。	改善策
教授会執行部による点検・評価									
自己評価	S								
理由	労働経済論 A・B、経済地理（Ⅰ・Ⅱ）をメディアスクーリングで新規に開講した。労働経済論はメディアスクーリングでのみの開講とし、経済地理はメディアと通信学習の 2 つで開講するなど、バランスを考慮した。								
改善策	今後は日本経済論、産業組織論、開発経済論、金融論等の各種専門科目についてもメディアスクーリングの開講を目指す。								
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】							
4	中期目標	カリキュラムツリーの活用を通じた学生の履修支援							
	年度目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップのホームページへの公開と学習ガイダンスでの説明。							
	達成指標	ホームページへの公開と学習ガイダンスでの説明。							
	年度末報告	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">教授会執行部による点検・評価</td> </tr> <tr> <td>自己評価</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>カリキュラムマップ・カリキュラムツリーを HP 上 (https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/economics/subject/cultural.html) に公開した。 また学生の学習支援として、春学期には「経済学を学ぶための戦略-戦術」をテーマに、秋学期には「大学で経済学を学ぶことの意義」をテーマに、教員講演ガイダンスを行った。</td> </tr> <tr> <td>改善策</td> <td>教員講演ガイダンスでの質疑・応答をもとに学生のレスポンスを今後のカリキュラムツリーの活用に生かす。</td> </tr> </table>	教授会執行部による点検・評価		自己評価	A	理由	カリキュラムマップ・カリキュラムツリーを HP 上 (https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/economics/subject/cultural.html) に公開した。 また学生の学習支援として、春学期には「経済学を学ぶための戦略-戦術」をテーマに、秋学期には「大学で経済学を学ぶことの意義」をテーマに、教員講演ガイダンスを行った。	改善策
教授会執行部による点検・評価									
自己評価	A								
理由	カリキュラムマップ・カリキュラムツリーを HP 上 (https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/economics/subject/cultural.html) に公開した。 また学生の学習支援として、春学期には「経済学を学ぶための戦略-戦術」をテーマに、秋学期には「大学で経済学を学ぶことの意義」をテーマに、教員講演ガイダンスを行った。								
改善策	教員講演ガイダンスでの質疑・応答をもとに学生のレスポンスを今後のカリキュラムツリーの活用に生かす。								
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】							
5	中期目標	継続的な学習推進。							
	年度目標	ステップ式の学習ガイダンス（事務説明・卒業生講演を経て、教員講演指導）を継続し、通信教育への理解を深める。また、不正行為の処分基準の改訂に伴い、レポート等の作成に際し、剽窃等の抑止強化（Turn-it-in 導入の周知等）を図る。							
	達成指標	ステップ式の学習ガイダンスの開催記録。学習成果であるレポート等作成に際しての剽窃等の抑止強化（Turn-it-in 導入の周知）。							
	年度末報告	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">教授会執行部による点検・評価</td> </tr> <tr> <td>自己評価</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>ステップ式学習ガイダンスを春学期・秋学期ともに開催した。また、Turn-it-in については、</td> </tr> </table>	教授会執行部による点検・評価		自己評価	A	理由	ステップ式学習ガイダンスを春学期・秋学期ともに開催した。また、Turn-it-in については、	
教授会執行部による点検・評価									
自己評価	A								
理由	ステップ式学習ガイダンスを春学期・秋学期ともに開催した。また、Turn-it-in については、								

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

			教育支援課より、全学導入の案内がされている。	
		改善策	カリキュラムツリーおよびマップの達成状況を学生自身が把握できるよう学習ガイダンスで指導案内を行う	
No	評価基準		教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
6	中期目標		カリキュラムツリー・カリキュラムマップを通じた学修成果の測定への取り組み。	
	年度目標		学修成果の測定への第一歩として、カリキュラムツリー・カリキュラムマップを周知させる。	
	達成指標		カリキュラムツリー・カリキュラムマップのホームページへの公開と学習ガイダンスでの説明。	
	年度末報告		教授会執行部による点検・評価	
		自己評価		A
理由			カリキュラムマップ・カリキュラムツリーを HP 上 (https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/economics/subject/cultural.html) に公開した。	
改善策		教員講演ガイダンスでもカリキュラムツリー・マップについて言及し、学生が学習の目的や方向性を理解できるように努める。		
No	評価基準		学生の受け入れ	
7	中期目標		アドミッションポリシーに基づいた学生の受け入れと検証。	
	年度目標		昨年度制定したアドミッションポリシーに基づいた学生受け入れ（募集、選抜）とその検証を行う。	
	達成指標		通教主任、通教学務委員による「通読判定」と「通信教育学務委員会」での検証、および学部教授会への報告と承認。	
	年度末報告		教授会執行部による点検・評価	
		自己評価		S
理由			通読判定により入学選考を行い、教授会に報告・承認された。また AP に記載された「社会に開かれた大学」として、身体・精神障がい者も多く入学するため、該当者に対する事前相談・面談の流れを構築している。	
改善策		身体・精神障がい者に対する事前相談・面談制度については具体事例を積み重ねることで改善を図る。		
No	評価基準		教員・教員組織	
8	中期目標		学部執行部に、通信教育課程を担当する通信教育課程主任を 1 名置き、他 1 名の学務委員とともに通教課程を担当する体制を維持する。	
	年度目標		通信教育課程担当の通教主任 1 名・学務委員 1 名を置くとともに、通教主任は教学人事政策委員会委員となり、通学課程との連携と調整を行う。	
	達成指標		各種委員会体制（委員会名簿）。	
	年度末報告		教授会執行部による点検・評価	
		自己評価		A
理由			通教主任と学務委員の 2 名が経済学部執行部と連携をとり、通信教育課程の課題等に対応している。	
改善策		通教主任と学務委員の 2 名の連携を強め、効率的かつきめ細かな対応を図る。		
No	評価基準		教員・教員組織	
9	中期目標		通信教育課程のカリキュラムにふさわしい教員組織の維持。	
	年度目標		通学課程の専任教員を、通信教育課程の教科担当者に必ず配置する形で、教育の質を維持する。	
	達成指標		通信教育課程経済学科科目担当者表。	
	年度末報告		教授会執行部による点検・評価	
		自己評価		A
理由			通信学習科目については専任教員が教科担当者となり、組織として通信教育課程の質を維持している。また通信教育課程には専属の専任教員がいないため、通学課程と同様の教員組織	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

			である。	
		改善策	通学課程と通信教育課程のカリキュラムを照らし合わせて教員組織の質を担保できるように努める。	
No	評価基準		学生支援	
10	中期目標		夏冬期スクーリング時に、学生相談支援室・通信教育課程主任・通信教育部長を中心に、教授会と連携をはかり、問題・相談に対応する。	
	年度目標		夏冬期スクーリング時に、学生相談支援室・通信教育課程主任・通信教育部長を中心に、教授会と連携をはかり、問題・相談に対応する。	
	達成指標		学生支援の対応の記録。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価		A
理由			身体・精神障がい者や疾病を持った学生が多く在籍しているため、スクーリング時には学生相談・支援室（カウンセラー・精神科医含む）と通教主任、通教部長、教授会執行部と連携し、問題・相談に対応する体制が整えられている。	
改善策		身体・精神障がい者が事前相談・面談制度を利用しやすいように HP 上やガイダンス等での周知を図る。		
No	評価基準		社会連携・社会貢献	
11	中期目標		「社会人の学び直し」の多様なニーズに応え、社会貢献としての意義を持つ通信教育課程を学部としてサステイナブルに維持して行く。	
	年度目標		通信教育協会加盟大学と合同説明会に参加し、広く高等教育の門戸を開放していることを全国の進学検討者に知らせる。	
	達成指標		広報活動、学生募集、入学者数、卒業生数の実績。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価		S
理由			全国で行われる通信教育協会主催の合同入学説明会に 16 回参加した。また、通信教育課程 5 大学（通信教育で最も古い歴史を持つ 5 大学）での合同説明会の開催も検討している。	
改善策		合同入学説明会でのフィードバックをもとに社会人学生のニーズに対して通信教育課程としてどのようなサービスを提供すべき・できるのか検討を進める。		
<p>【重点目標】 昨年度作成したカリキュラムツリーの活用を通じた学生の履修支援：カリキュラムツリーの公開と学習ガイダンスでの説明を通じて。</p> <p>【年度目標達成状況総括】 年度目標は次の 4 点であった。第 1 にガイダンス等を通じた学生によるカリキュラムマップおよびカリキュラムツリーの理解のさらなる深化、第 2 に第 1 にとってより整合的な講義科目の多様な充実、第 3 に、第 2 の試みの過程におけるメディアスクーリングの積極的な導入、そして第 4 に以上によって通信高等教育の門戸をより多くの多様な学生へ開放すること。これらは総じて目標を達成している。来年度も引き続けて進めていきたい。</p>				

【2018 年度目標の達成状況に関する大学評価】

2018 年度目標の達成状況に関して、教育課程・教育内容については、成績分布や学生アンケート等のデータを活用し、カリキュラム科目の更なる充実化を図ることとカリキュラムツリーとカリキュラムマップを使って、カリキュラムの整合性や順次性を検証・改善することを年度目標として掲げ、達成指標として前者は通教学務委員会の開催記録と教授会等へのフィードバック、後者では学部専任教員への説明とフィードバックの反映が設定されており、実際にフィードバックが実行されたことは評価できる。しかしフィードバックの結果として、何が改善されたのかを具体的に説明する必要があると思われる。

教育方法については、年度目標として、「メディア授業の充実化とメディア授業とスクーリングの開講科目のバランスの検証」および「カリキュラムツリー・カリキュラムマップの周知」が挙げられ、それぞれ達成指標として「メディア授業の科目数の増加と再配置」、「ホームページへの公開と学習ガイダンスでの説明」が設定されている。両者とも概ね実行されており、プロセス・達成度ともに高く評価できる。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

学習成果については、「ステップ式学習ガイダンスと不正行為の抑止強化」および「学修成果の測定への第一歩としてカリキュラムツリー・カリキュラムマップの周知」が年度目標として設定され、達成指標として前者は「ステップ式の学習ガイダンスの開催記録と学習成果であるレポート等作成に際しての剽窃等の抑止強化」、後者は「カリキュラムツリー・カリキュラムマップのホームページへの公開と学習ガイダンスでの説明」があげられている。両者とも概ね達成できており評価できる。

学生の受け入れについては、年度目標として「アドミッション・ポリシーに基づいた学生の受け入れと検証」が挙げられ、達成指標として「通教関係者による『通読判定』と『通信教育学務委員会』での検証、および学部教授会への報告と承認」が設定されている。これらの目標は全て実行されており、プロセス・達成度ともに高く評価できる。

教員・教員組織については、通学課程との連携・調整を行うために、「通信教育課程主任と学務委員をそれぞれ1名置くこと」、また「教育の質を維持するため通学課程の専任教員を通信教育課程の教科担当者として配置すること」が挙げられ、達成指標としてその実施が設定されている。これらは全て実行されており、プロセス・達成度ともに評価できる。

学生支援については、年度目標として「夏冬期スクーリング時に学生相談支援室と通教事務担当者を中心に教授会と連携を図りつつ問題・相談に対応すること」が挙げられ、達成指標としてその実行が掲げられているが、本目標は実行されており、プロセス・達成度ともに高く評価できる。

社会連携・社会貢献については、年度目標として「通信教育協会加盟大学と合同説明会に参加し、高等教育の門戸を開放していることを全国的に周知すること」を挙げているが、単に周知することを社会貢献とみなすことができるのかについては疑問が残るものの、合同説明会に参加したということでは目標を達成したと判断できる。

重点目標としては、上記「カリキュラムツリーの活用を通じた学生の履修支援」が掲げられている。カリキュラムツリーの公開と学習ガイダンスの実施は必須であるが、それぞれの内容や実施方法の深化を図ることを検討したという点では目標達成として評価できる。

IV 2019年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	生涯学習に対応した更なるカリキュラムの充実。
	年度目標	過年度の成績分布データや学生アンケートを元に学生のニーズをとらえ、世代に関わらないカリキュラムの充実を目指す。
	達成指標	学務委員会資料の教授会等へのフィードバック（通教主任による報告や教授会での承認等）。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
2	中期目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップの活用を通じたカリキュラムの点検と改善。
	年度目標	カリキュラムマップ、カリキュラムツリーを確認し、必要に応じて修正等を行う。
	達成指標	修正後のカリキュラムマップ、カリキュラムツリーの事務局への提示。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
3	中期目標	検証に基づく更なるスクーリングの充実。
	年度目標	学生アンケートでも好評を得ているメディアスクーリング科目の増設。
	達成指標	メディアスクーリング授業の撮影コンテンツ。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
4	中期目標	カリキュラムツリーの活用を通じた学生の履修支援。
	年度目標	現状認知度が低いため、ガイダンス等を通じ、カリキュラムマップ・カリキュラムツリーについて案内を行い、学生の目に触れる機会を増やす。
	達成指標	学習ガイダンスでのマップ、ツリーの案内。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
5	中期目標	継続的な学習推進。
	年度目標	ステップアップ型学習ガイダンス（事務ガイダンス・卒業生講演及び相談・教員講演）を春と秋の入学後に引き続き実施し、通信教育課程での学びについて理解を深める。また学生相互扶助の観点から先輩学生からの学習アドバイスを法政通信に掲載する。
	達成指標	ガイダンス実施報告。法政通信の発行。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
6	中期目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップを通じた学修成果の測定への取り組み。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	年度目標	現状認知度が低いため、ガイダンス等を通じ、カリキュラムマップ・カリキュラムツリーについて案内を行い、学生の目に触れる機会を増やす。
	達成指標	学習ガイダンスでのマップ、ツリーの案内。
No	評価基準	学生の受け入れ
7	中期目標	アドミッションポリシーに基づいた学生の受け入れと検証。
	年度目標	アドミッションポリシーにある「社会に開かれた大学」を实践し、意欲ある様々な学生を受け入れる。
	達成指標	通教主任と学務委員会委員による書類選考の実施と教授会への報告・承認。
No	評価基準	教員・教員組織
7	中期目標	学部執行部に、通信教育課程を担当する通信教育課程主任を1名置き、他1名の学務委員とともに通教課程を担当する体制を維持する。
	年度目標	通信教育課程担当の通教主任1名と学務委員会委員を置き、教授会執行部との連携をはかる。
	達成指標	各種委員会体制（委員会名簿）。
No	評価基準	教員・教員組織
8	中期目標	通信教育課程のカリキュラムにふさわしい教員組織の維持。
	年度目標	通信教育課程の教科担当者に専任教員をあてる。
	達成指標	通信教育課程経済学科科目担当者表。
No	評価基準	学生支援
9	中期目標	夏冬期スクーリング時に、学生相談支援室・通信教育課程主任・通信教育部長を中心に、教授会と連携をはかり、問題・相談に対応する。
	年度目標	スクーリング時に学生相談支援室・通教主任・通教部長と連携し、問題・相談に対応する。また、入学を希望している障がい等を持つ方に事前相談を実施し、本学通信教育課程でできる支援と配慮を相互確認して、ミスマッチを防ぐ。
	達成指標	学生相談記録。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
10	中期目標	「社会人の学び直し」の多様なニーズに応え、社会貢献としての意義を持つ通信教育課程を学部としてサステイナブルに維持して行く。
	年度目標	通信教育協会主催合同入学説明会や5大学合同説明会等を実施し、広く門戸を開放していることを全国の進学検討者にアピールしていく。
	達成指標	広報活動実施報告。
【重点目標】 カリキュラムツリー、カリキュラムマップの認知度の向上。		

【2019年度中期・年度目標に関する大学評価】

経済学部経済学科通信教育課程における2019年度中期・年度目標の内容については2018年度のそれと大きな違いがない。改善すべき点としては教育方法と学習成果に関して、昨年度と同様にカリキュラムツリーとカリキュラムマップを単に周知することが年度目標として掲げられていることである。上記項目における中期目標を達成するためには、年度目標としてそろそろ周知以上の取り組みを掲げる必要があると思われる。また重点目標についても、定員未充足など重要な問題が取り上げられず、逆に学生への周知を徹底すれば解決するような問題が設定されているが、これらの認知度が向上することで何が大きく改善されるのか、より具体的な説明が必要であると考えられる。

【大学評価総評】

近年、社会人がキャリアアップに必要な資格をとるために通信教育課程で学ぶというケースや生涯学習としての学び直し、多様な背景を持った学生の学びの場として通信教育課程に対する社会的ニーズの多様化が見られる。このような状況に対応すべく、他大学の通信教育課程では資格取得へのカリキュラム変更、スクーリングの機会の増加、授業料の改定などの取り組みが行われている。経済学科において資格取得に直結するカリキュラムの構築は難しいかもしれないが、他方で近年統計学や数学の素養がビジネスマンにとって必要不可欠なスキルとして認識されつつある中で、経済学の分析手法に対する社会的ニーズはますます高まっている。通信教育課程に対する社会的需要の低下という構造的な問題に直面する

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

中で、経済学部経済学科通信教育課程はメディアスクーリングの拡充など学生のニーズに基づいたカリキュラムの構築に乗り出すだけでなく、学習成果の向上を目的として、科目とディプロマ・ポリシーの関連性の可視化やカリキュラムの体系化、またカリキュラムツリーとカリキュラムマップの作成に取り組んでおり、その状況改善のための取り組みは評価できる。今後も、経済学科通信教育課程においてもより特色のあるカリキュラムの構築を期待する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。